

「小山市読書活動推進計画（案）」に関するパブリック・コメントの結果について

「小山市読書活動推進計画（案）」に関するパブリック・コメントの結果について、以下のとおり公表します。

今回の意見募集にあたり、ご協力いただきました方々へ御礼申し上げますとともに、今後とも本市の読書活動の推進にご理解とご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

1 意見募集の概要

- 1) 閲覧期間：令和7（2025）年12月26日（金）
～令和8（2026）年1月25日（日） 31日間
- 2) 閲覧場所：①中央図書館 ②各分館 ③公民館図書室・配本所のある出張所
④小山市ホームページ
- 3) 提出方法：①郵送 ②FAX ③電子メール ④専用フォーム
⑤中央図書館へ直接書面による提出

2 意見募集の結果

提出意見数：6名 47件

（専用フォームから5名35件、中央図書館へ直接1名12件）

3 提出された意見等の概要とこれに対する市の考え方

次ページより

- 【区分】 A：計画案に反映されているもの（4件）
B：ご意見を踏まえ、計画案を修正するもの（22件）
C：ご意見として承ったもの（21件）

4 お問い合わせ先

小山市立中央図書館

TEL：0285-21-0753

Mail：d-tosyo@city.oyama.tochigi.jp

番号	項目	ご意見等	区分	市の考え方
1	第1章 計画の概要	【P.3】国、県、市の法律や計画と小山市読書活動推進計画の関係を示す図を、もう少し大きくして欲しい。本文を読むより視覚的に捉えられて、この図の方がわかりやすいので、効果的に使用してほしい。	B	【P.3】に掲載している、国・県・市の法律や計画と本計画との関係を示す図につきまして、視覚的に理解しやすくするため、図の縦幅を広げ、文字を大きくするなど、見やすさの向上を図るよう修正いたします。
2	第2章 小山市における 読書活動の現 状・課題	P7書店の現状では、小山市の書店数を掲載することも可能ではなかったのか。小山市民にとって一番知りたい数字です。……小山市内の書店数が減っている現状に危機を感じます。	B	本計画の該当箇所において、小山市の書店数に関する情報を追記し、現状をより分かりやすく示すよう修正を行います。
3		・P7 書店の現状 に小山市の現状報告を入れることはできますか？ P41 の地域書店の活性化の項にも繋がってくると思います。	B	本計画の該当箇所において、小山市の書店数に関する情報を追記し、現状をより分かりやすく示すよう修正を行います。
4		アンケートは、回答する状況を深く鑑み、質問内容等を再考することから実施を希望。なお、回答結果の紙面は全体に規模を縮小した方が見やすいと思う。大きなグラフや活字は雰囲気重い。	B	次回の計画策定に向けてアンケートを実施する際には、より回答しやすく、実態を適切に把握できる内容となるよう、質問項目や構成の見直しを検討してまいります。 また、アンケート結果の紙面について、より見やすく、読み手に負担の少ないレイアウトとなるよう改善を図ってまいります。
5		【P.12-21】アンケート結果のグラフで、一つの項目について上下で今回と前回の結果を並べているのは、比較しやすくして良いのだが、色が判別しにくい。下の淡色の方を、濃色で縁取り囲みにしてほしい。	B	アンケート結果のグラフにつきまして、ご提案のとおり、淡色部分を濃色で縁取りするなど、視認性を高める工夫を行い、より見やすいグラフとなるよう修正いたします。
6		また、特に16歳以上の市民については、このようなアンケートに回答する人は、そもそも読者に関心のある人というバイアスがかかっていると思われるので、アンケート結果だけに頼ることなく、広い視野で検討してほしい。	C	いただいたご意見は、今後の計画検討において、アンケート結果の活用方法や市民意見の把握の在り方を考える際の参考とさせていただきます。
7		・P16のアンケートから、小2の42%が絵本を読むとの回答を興味深く拝見しました。“字が読める＝本が読める”ではないこと、低学年では絵の助けによって読解力が深まっていくことを、大人はもっと理解しなくてはならないと改めて思いました。	C	アンケート結果の内容について、今後の読書活動推進に関する取組を検討する際に参考にしてまいります。
8		アンケート結果から、学校図書館をいつも開けてほしい、という声が多いことに、気づいてほしい、と思います。そして、学校司書が、教師への資料の提供、準備、等への協力、子どもの読書活動に積極的に参加出来るような環境を作ることも、必要である、と思います。	C	いただいたご意見は、学校図書館の充実や学校司書の役割発揮に向けた今後の検討において参考とさせていただきます。
9		・P24 アンケートにて、外国籍の方の読書の意欲、障がいのある方の貸出期間を長くしてほしいという意見が目が留まりました。	C	アンケート結果の内容について、今後の読書活動推進に関する取組を検討する際に参考にしてまいります。
10		小山市の学校図書館における学校司書配置の問題は根深く、学校司書というその存在さえ知らないケースが多い。また、司書教諭(12学級以上)は、いても図書館業務に専念できる状況ではないという。	C	本計画では、市立図書館と学校図書館との連携を進めることを掲げており、いただいたご意見は、今後の取組を検討する際の参考とさせていただきます。学校現場の状況を踏まえつつ、より効果的な支援や連携の在り方について引き続き検討してまいります。
11		【P.26 2学校での取組 ◆学校司書の配置】この文章だと、初年度1名、2年目はさらに2名(合計3名)、3年目はさらに3名(合計6名)と読み取られかねない。実際には、毎年1名ずつ増やしているの、その点を明確に記載してほしい。	B	学校司書の配置の記述につきまして、実情が正しく伝わるよう記載を見直します。
12		「おやま井戸端会議 これからの小山市の図書館について考えよう……」は画期的な出来事で嬉しかった。市民の身近な声を届けられる場として有意義。良かった。	A	ありがとうございます。 今後も、市民の皆さまの声を計画や事業に反映できるよう、参加しやすい意見交換の機会づくりに努めてまいります。
13		第3章 計画の理念・方針・体系と指標	【P.30 2計画の目標】本文中で「市民一人ひとりが読書の楽しさを知り、本のある暮らしを定着させていくことを目標とします。」とあるのに、今のレイアウトだと目標が「1か月に1冊も本を読まない市民の割合(不読率)を全対象(世代)で低下させる」のように見える。不読率の低下は目標達成の指標であって、指標の数字は目標そのものではないと考える。見直してほしい。	B

番号	項目	ご意見等	区分	市の考え方
14	第4章 読書活動推進の ための施策の展 開	【P.34 1施策・事業・取組一覧】白抜き文字になっている「重点目標」の印が、項目の後ろにあるのがレイアウトとしてわかりにくい。各項目の前に付けてある方がわかりやすいし、35ページ以降の見出しのレイアウトとも統一が取れる。また、基本方針4の、黄色に白抜きの文字が読みにくい。地の色をもう少し濃くするなど工夫して、見えやすくしてほしい。	B	ご提案の趣旨を踏まえ、レイアウトや配色を見やすくする方向で改善を行います。
15		基本方針1「誰もが読書を楽しめる環境づくり」について ・小山市には子育て世代の方々も多いと思う。真岡のmonacalにあるような、「もおかつひろば」「びよびよる一む」のような託児サービスが出来ると、居場所としての図書館の環境づくり、また幼児期における読書活動の推進にもよいのではないか。	C	子育て世代の方が安心して図書館を利用できる環境づくりは、読書活動の推進において重要であると認識しております。 小山市においても、子育て支援施策や既存施設との連携状況、図書館のスペース・人員体制などを踏まえながら、図書館が子育て世代にとってより利用しやすい場となるよう、今後の検討材料として参考にさせていただきます。
16		P36 障害者むけのサービスについて、視覚障害者だけでなく、身体障がい者などへのサービスとして、電子図書館のサービスをもっと充実させてほしい、と思います。図書館への移動が難しい方への、サービスとして、これからの電子図書館での読書が大変便利だと思うからです。	B	ご提案の趣旨を踏まえ、障害のある方へのサービスの一つとして電子図書館に関する記述を追記いたします。
17		【P.36 読書に関する日常生活用具の給付】について、本文では「購入費用に対する助成等を行います。」とあるが、見出しからは「用具の現物支給」のように読み取れるので、わかりにくい。見出し、本文共に、実際に行われる支援がわかる言葉、文章にしてほしい。	B	【読書に関する日常生活用具の給付】の見出しおよび本文の表現を「助成」に統一する形で修正いたします。
18		(3)「多言語での読書環境の整備」について ・整備自体は前向きで良いと思うが、実際5%程度の外国籍の方がおり、外での仕事や子育てなどに関わっている方も相当数おられると思う。そういう意味では蔵書が全体で数十万冊ある自治体でもあるので、1650冊よりもっと多言語図書があってもいいのではないか。共に地域でいきっていく方々向けに様々な図書があるというのがいいと思うし、図書を活かした相互交流を促すイベントなどがあってもいいと思う。例えば、外国にルーツをもつ方が母国の絵本などを紹介し、逆に日本人が日本の本を紹介し合うなど、図書を介在させることで、自然な形で地域コミュニティへの参加を促せるのではないか。	C	多言語資料の冊数について、現行の目標値は図書館の蔵書構成や利用状況を踏まえて設定したのですが、ご指摘のとおり、地域の多様性に応じた資料の充実は今後も継続的に検討すべき課題と考えております。 計画案にも示したとおり、紙の本だけでなく、電子図書館でも多言語の本を購入するなどの取組を行ってまいります。 また、いただいたご提案は、今後の取組の参考とさせていただきます。
19		【P.37 親子で読書を楽しむ環境づくり】担当課が中央図書館だけだが、子育て家庭支援課と一緒に担当する事ではないか。館内に子育て支援コーナーを設置するなら行政情報も提供する事が見込まれるし、それは子育て支援課が関わる事だと考える。	B	本取組の担当課として「子育て家庭支援課」を追記する形で記載を修正いたします。
20		p38 保育の場での絵本活用について:担当が保育課であるが、ちいさな子どもにも手渡す絵本には、市立図書館司書の知識が必要。	C	ご提案の趣旨を踏まえ、図書館が作成したブックリストを保育課と共有するなど、図書館司書の知見を生かした連携の在り方について検討してまいります。
21		p38 2(2)で 学校図書館の充実を重点事業と掲げるのであれば、何より2014年学校図書館法改正により位置づけられた学校司書の配置を強く願う。人件費という難問は、地方交付税を市が予算化して検討を願う。なお、業務に専念できる正規の職員化を求める。学校事務職兼務の学校司書ではめざすところの学校図書館業務は、無理であると思う。学校司書は、その学校に継続して勤めることに実は大きな意義があり、子どもたちの入学日から顔を見て卒業までの成長を支えるという特異な仕事です。子どもの身体成長(特にこころ)にかかわり、不登校児やいじめ対応の居場所ともなり得る図書館は、教育現場にかかせないものです。いづれ、教員にも必要とされる学校図書館には、いつでも「人」がいなければいけない。また、学校司書の身分は、厚く守っていただきたい。	C	本計画では、市立図書館と学校図書館との連携強化を掲げており、学校図書館の体制整備については、教育委員会内の担当課とも連携しながら、今後の検討課題として引き続き状況を把握してまいります。いただいたご意見は、学校図書館の充実に向けた取組を検討する際の参考とさせていただきます。

番号	項目	ご意見等	区分	市の考え方
22	第4章 読書活動推進の ための施策の展 開	・P38 おすすめブック 教職員、児童生徒の意見は貴重ですが、反面、興味分野や好み、選者の読解力による偏りも出ているように感じます。おすすめブックは市内全校の学校図書館におかれます。選書にあたっては、より広く平らな視野で本を見る訓練を積んだ司書の目を必ず入れていただきたいと思います。また、学校によっては必ず読まなければならない本として定義しているところもあると聞いています。おすすめブックは“何を読んだらいいか迷ったら手に取ってみて”というガイドであって、読書の幅を広げる入り口ではありますが、課題図書ではないと考えます。何を読むかは個人の自由です。	C	いただいたご意見は、今後の「おすすめブック」の選定方法や学校現場での活用の在り方を検討する際の参考とさせていただきます。
23		P38 ボランティアとの連携:担当がこども教育課であるが、学校における読み聞かせボランティアは、中央図書館が適切と思う。	C	学校で活動する読み聞かせボランティアにつきましても、学校支援ボランティアとして各学校が募集・調整を行っていることから、本計画では担当課を「こども教育課」として整理しております。いただいたご意見は、今後のボランティア支援の在り方や図書館との連携の検討において参考とさせていただきます。
24		基本方針2(3)「青少年期における読書活動の推進」について ・青少年に響くようなイベントがもっとあるといいと思う。中高生が前向きに関わり、「本を読むこと・語ること」はかっこいいという流れになるといいと思う。TRPGのイベントがあってもいいのでは。また、真岡のmonacaのように、地域の中等・高等教育機関と協定を結んで継続的に若い方々と図書館自体が交流していくというのも一案だと思ふ。	C	青少年が主体的に読書に関わり、「本を読むこと・語ること」を前向きに捉えられるような環境づくりは、読書活動の推進において重要であると認識しております。中高生が参加しやすいイベントの充実や、若い世代の感性に響く企画の工夫については、今後の取組を検討するうえで大変参考になるご提案です。いただいたご意見は、青少年期の読書活動をより魅力的にするための取組を検討する際の参考とさせていただきます。
25		・P39 ◎レファレンスサービス 文章の冒頭、「書館」→“図書館”のミスと思われます。ご確認ください。	B	該当箇所について「図書館」となるよう修正いたします。
26		・読書のためのツールの整備 ツールのひとつとして、一行ずつ読むための菜(リーディングトラック)を加えてはどうでしょう。“など”に含まれているかもしれませんが、名称を明記するとよいと思います。この道具は、高齢者、障がい者だけでなく、文字を読むことに困難のある子どもにも安価で有効な道具だと思ふ。	B	ご提案の趣旨を踏まえ、読書支援ツールの例としてリーディングトラックを追記する方向で修正いたします。
27		・P40 移動図書館、団体貸出と、P42県立図書館協力車の巡回を関連付けで読みました。市内の学校図書館の蔵書の計画的な整備によって、調べ学習で同じ本がクラスに必要な時など、学校間の相互貸借で冊数を揃えられる仕組みがあるとよいと思ふ。(さいたま市で実践例があると聞いています。)	C	本計画では、移動図書館や団体貸出、県立図書館協力車との連携など、資料提供体制の充実を掲げておりますが、学校図書館同士の連携強化についても、今後の検討にあたって参考とさせていただきます。
28		基本方針3 ・(3)「市内企業・関係機関との連携」について連携があまりできていなかった面があると思ふ。たとえば、おそらく小山市文書館には貴重な資料が多くあると思ふし、問い合わせれば丁寧に教えてくださるのだと思ふが、どの様な資料があるのかなどの情報が、小山市図書館で手軽にわかりやすく公開されているとより良いと思ふ。	C	市内の関係機関との連携については、図書館サービスの充実に向けて重要な視点であると認識しております。現状では、文書館との連携や資料情報の共有が十分とはいえない面もあることから、今後は文書館をはじめとする市内関係機関との連携を強化し、所蔵資料の案内方法や情報発信の在り方について検討を進めてまいります。いただいたご意見は、地域の知的資源を活かしたサービス向上を図るうえで参考とさせていただきます。
29		他に、地域の芸術活動や車屋美術館などと連携して、文化活動を行うこともよりできるのではないかと思ふ。例えば、中学生による黒板アートの展示が市役所などで行われているが、このようなものも図書館で展示があってもいいと思ふ。	C	地域の芸術文化活動や車屋美術館などの文化施設と連携し、図書館を文化発信の場として活用していくことは、地域の魅力向上や市民の創造的活動の支援につながるものと認識しております。いただいたご提案は、今後の関係機関との連携の在り方や、図書館を活用した文化活動の展開を検討する際の参考とさせていただきます。

番号	項目	ご意見等	区分	市の考え方
30	第4章 読書活動推進の ための施策の展 開	【P.41 ビジネス支援情報の共有】「ビジネス支援・農業支援情報の共有」の方が実際の取組を表すのではない。この見出しだと、農業支援が埋もれてしまう。農業支援は小山市立中央図書館の特色ある取組なので、この見出しと連絡会の名称にも盛り込んでほしい。◎の部分には併記されているし、あえて、農業支援をビジネス支援に含めてしまう必要はない。また、担当課にビジネス支援や農業支援に関わる課の記載が必要と考える。	B	【ビジネス支援情報の共有】について、見出しを「ビジネス支援・農業支援情報の共有」に修正いたします。
31		P43 子ども司書養成セミナーでの学び、が、読書推進リーダーとして、在籍する学校で行われているのか、が、良くわかりませんでした。学校内での活動には、難しい面があるのではないかと感じました。図書館と学校との連携はとれているのでしょうか。	B	いただいたご意見を踏まえ、子ども司書の活動について図書館と学校が連携しながら取り組んでいることが適切に伝わるよう、記載の仕方を見直します。
32		子ども司書についても、いま、子どもである彼ら、彼女たちに“仕事をさせる”のは、おとなとしての逃げだと思えます。子ども司書としての研修を役立ててほしいと願うのなら、研修を受けた子どもたちが大人になって司書になりたいと願ったとき、その職場を提供することが一番の人材活用であり、子どもたちへの希望となると思います。どうか、子どもたちを大きな目で育ててあげてください。本好きの子どもというのは、人前でしゃべることが苦手な子どももいます。その子たちを追い詰めないであげてください。教育長や校長先生に、期待していますと言われて、できません…と言える子どもはいません。	B	本取組は、子どもたちに“役割を担わせる”ことを目的とするものではなく、読書への関心を育み、学びの機会を広げることを意図したものです。いただいたご意見を踏まえ、子どもたちの自主性に配慮する姿勢がより明確に伝わるよう、文章の記載内容を見直します。
33		・P43 ◎子ども司書セミナー “読書の楽しさを伝える活動をしてもらいます”とありますが、こどもにも義務を与える印象を受けます。活動するかしないかは、その子の勝手であり、大人が責を与えることはあってはならないと思います。子どもが、ますます本が好きになるキッカケのひとつとして温かく見守る方向であるべきだと思います。	B	本取組は、子どもたちに役割を負わせることを目的とするものではなく、読書への関心を深め、学びの機会を広げることを意図したものです。いただいたご意見を踏まえ、子どもたちが無理なく参加できるよう配慮していることが伝わるよう、表現を含め記載内容を見直す方向で修正いたします。
34		・P44 ボランティアへの学習機会の提供とは具体的に何でしょうか？ 前項(2)の講座などの案内ということでしょうか？	B	本項で想定している学習機会は、前頁(P.43)に記載している「子どもと本をつなぐ講座」を指すものであるため、その点が分かりやすく伝わるよう記述を見直します。
35		施策・事業・取組一覧がわかりやすく良い。 2(2)及び3(2)に、学校長との連携を活字で掲げることはいできないものか。	C	本計画では、学校に関する取組については担当課である「こども教育課」が所管しており、学校との連携も同課の業務に含まれることから、計画書は「こども教育課」と記載する形で整理しております。 いただいたご意見は、今後の記載方法や表現の在り方を検討する際の参考とさせていただきます。
36	第5章 計画の推進	読書文化の醸成という言葉に期待を込める。 PDCAサイクルが楽しみ 進行管理体制を始めて知りました。読書文化の見える化を体験できそうです。02行動まずは行動あれ。 目標の達成度や評価結果は、途中経過として定期的に「広報おやま」誌上で公表することを確約してほしい。年度ごとでは、何をしているか伝わらないから。	B	目標の達成度や評価結果の公表についてのご提案につきましては、計画の進行管理において、評価結果を関係課間で共有するとともに、図書館協議会において報告する旨を計画に記載するよう修正いたします。 「広報おやま」での定期的な途中経過の公表については、現時点では予定しておりませんが、いただいたご意見は今後の情報発信の在り方を検討する際の参考とさせていただきます。
37		【P.46 計画の進行管理】誰が(または課、機関など)が定期的に確認し、評価するのか、この記述からはわからない。明確に定めて記載してほしい。	B	ご提案の趣旨を踏まえ、計画の進行管理について明確になるよう、記載を修正いたします。
38		・PDCA サイクルによる進行管理という手法は、よいと思います。どのくらいの間隔で行いますか？	B	本計画の進行管理につきましては、中央図書館が年に1回、関係課に調査を依頼し、その結果を基に確認・評価を行う体制としており、その旨を計画に記載します。

番号	項目	ご意見等	区分	市の考え方
39	資料編	・資料編 2 関連法令に学校図書館法を加えてはいかがでしょうか。	C	本計画では、本文中で直接引用・参照している法令のみを掲載する方針としております。そのため、学校図書館法については、今回の資料編には記載しておりません。いただいたご意見は、今後の資料編の構成を検討する際の参考とさせていただきます。
40		パブリック・コメントの実施は、新鮮で喜ばしく物を言える場として、ありがたいです。	A	ありがとうございます。今後も意見をお寄せいただきやすい環境づくりに努めてまいります。
41		計画書はこの計画の対象である子どもから大人(高齢者)も読んで理解できるように文言をわかりやすいものに(カタカナ表記単語はわからない)、見やすくしてほしい。	B	本計画では、文章中で使用している専門的な用語や分かりにくい表現について、用語解説を付けることで理解を補えるようにする予定です。今後も、できる限り平易な表現を用いるとともに、誰にとっても見やすく読みやすい計画書となるよう改善に努めてまいります。
42		意見の提出について、長期の閲覧期間を頂戴したにもかかわらず流し見しかしておらず、大変遺憾に思い恐縮しています。 集中力に乏しく視力の弱い高齢者にとって、このような大量の計画案を十分に理解するのは至難の作業となります。 市内の高齢者比率が高くなる昨今、とかく引籠りになりがちな市民にも明るい希望となります「小山市読書活動推進計画」を心から楽しみにし、その経過をしっかり見届けます。	C	今回の計画案について、閲覧にご負担をおかけしたにもかかわらず、丁寧にお読みいただき、ご意見をお寄せいただきましたことに深く感謝申し上げます。 今後は、より多くの市民の皆さまに読みやすく、理解しやすい計画書となるよう、レイアウトや表現方法の工夫に努めてまいります。
43		今回から、子どもに限定せず全ての市民が対象となる事に期待する。身近な大人が読書をしている姿を見て、子どもは読書に興味を持つと思う。年齢、障害の有無、母語に関わらず、読書できる環境となる事を望む。	A	本計画では、誰もが利用しやすい図書館づくりを目指しており、いただいたご意見を踏まえながら、すべての市民が読書に親しめる環境の整備に努めてまいります。
44	全体	全体から見て、一部気になることを述べさせていただきました。	C	本計画全体をご覧いただいたうえで、気になる点についてご指摘いただき、ありがとうございました。
45		いろいろと考えられ、練り上げられた計画だと思えます。それぞれの計画において、中央図書館が中心になって進められることが多いように見受けられますが、それに対する人員計画は大丈夫なのでしょうか？ みんなが利用しやすい図書館、というのは素晴らしいと思いますが、一方で知りたいということ満足させる図書館、より専門性の高い要求にも対応するためには、図書館職員の増員、図書館職員を育てることが大切だと思います。また、公民館の図書室の利用とのすみわけ、移動図書館の増設を考えていただきたいと思います。	C	図書館サービスの充実を図るうえで、適切な人員配置や職員の育成は重要であり、必要に応じて人員確保に向けた要望を行っていくことも含め、今後の検討課題としてまいります。 また、「知りたい」というニーズに応える専門性の高いサービスの提供や、公民館図書室との役割分担、移動図書館の在り方についてのご指摘についても、今後の図書館運営体制やサービスの充実を検討する際の参考とさせていただきます。
46		この読書推進計画が商業的にならず、人生における豊かな読書の時間を多角的に提供できるものになることを願っています。	A	本計画に基づき、すべての世代の市民が読書に親しめる環境づくりを推進してまいります。
47		・6年間の計画ということは、今年小学校1年生になる子が小学校を卒業するまでと同じ期間であり、また、今年生まれた子が小学校へ入学するまでの期間でもあります。この期間に小山市の読書環境がよりよくなることを期待します。そのために必要な人員、予算の確保が十分でありますよう、切に願います。	C	本計画に基づき、小山市の読書環境がよりよくなるよう、取組を進めてまいります。そのために必要な人員、予算につきましても、十分に確保できるよう努めてまいります。